

令和2年度第1回横浜市緑区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会 議事録	
日 時	令和2年6月2日(火) 午前9時から午後5時30分まで
開催場所	緑区役所4階会議室4B
出席者 ※敬称略	<p><b>【選定委員会委員】</b></p> <p>委員長 村井 祐一 ( 田園調布学園大学 教授 )</p> <p>委員 今道 敏郎 ( 税理士 )</p> <p>勝田 睦子 ( 緑区保健活動推進委員会 会長 )</p> <p>正木 きよ子 ( 緑区民生委員児童委員協議会 副会長 )</p> <p>松浦 千恵 ( 緑区地域子育て支援拠点「いっぽ」 施設長 )</p> <p>蕨 圭二 ( みどり地域活動ホームあおぞら 施設長 )</p> <p>臨時委員 明田 邦彦 ( 東本郷地域ケアプラザ運営協議会 会長 )</p> <p>井上 敏正 ( 長津田地域ケアプラザ運営協議会 会長 )</p> <p>篠崎 慧 ( 山下連合自治会 会長 )</p> <p>土志田 誠人 ( 中山地域ケアプラザ運営協議会 副会長 )</p> <p>松浦 正義 ( 十日市場地域ケアプラザ運営協議会 会長 )</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>緑区福祉保健センター長 室谷 洋一</p> <p>緑区福祉保健センター担当部長 市川 一弘</p> <p>緑区福祉保健課長 米岡 由美恵</p> <p>緑区福祉保健課事業企画担当係長 稲田 道</p> <p>緑区福祉保健課事業企画担当 高橋 哲平、河原 龍也</p>
欠席者	無し
開催形態	公開(ただし、 <b>面接審査及び審議以降は非公開</b> と決定済み(令和元年度第1回委員会)) (傍聴者1人)
議題	<p>1 応募団体の面接審査について</p> <p>(1) 会議の公開・非公開の決定・確認について</p> <p>(2) 応募状況・審査方法の確認について</p> <p>(3) 最低基準点の確認について</p> <p>(4) 事業実績評価方法の確認について</p> <p>(5) 財務評価方法の確認について</p> <p>(6) 面接審査</p> <p>(7) 審議(指定候補者確定)</p> <p>2 指定管理者の候補者の選定について</p>
決定事項	指定管理者の候補者(以下「指定候補者」という。)及び指定候補者を指定管理者として指定できない場合に指定候補者に代わって指定候補者となる者(以下「次点候補者」という。)として、次のとおり、横浜市緑区長に報告することとする。

	<p>1 横浜市東本郷地域ケアプラザの指定候補者及び次点候補者 指定候補者：社会福祉法人 横浜YMCA福祉会 次点候補者：無し</p> <p>2 横浜市中山地域ケアプラザの指定候補者及び次点候補者 指定候補者：社会福祉法人 横浜市福祉サービス協会 次点候補者：無し</p> <p>3 横浜市十日市場地域ケアプラザの指定候補者及び次点候補者 指定候補者：社会福祉法人 神奈川県匡済会 次点候補者：無し</p> <p>4 横浜市長津田地域ケアプラザの指定候補者及び次点候補者 指定候補者：社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会 次点候補者：無し</p> <p>5 横浜市山下地域ケアプラザの指定候補者及び次点候補者 指定候補者：社会福祉法人 ふじ寿か会 次点候補者：社会福祉法人 みどりの風</p>
<p>そ の 他</p>	<p>1 資格要件について、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神奈川県警に照会した結果、暴力団又は暴力団経営支配人等ではないこと</li> <li>・市税納付状況等の照会の結果、滞納はないこと</li> </ul> <p>をそれぞれ確認し、事前に委員へ報告した。</p>

**1 開会（進行：委員長）****2 定数の確認について**

選定委員出席者数 6 人（委員会成立要件 4 / 6 名）※臨時委員は除く

**3 議題****(1) 会議の公開・非公開の決定・確認について**

令和元年度第 1 回委員会の議事内容を確認し、「面接審査」及び「審議」以降は非公開で行うことを再確認。

**(2) 応募状況・審査方法の確認について**

山下地域ケアプラザは 2 団体、それ以外の 4 施設はそれぞれ 1 団体の応募があった。応募団体が 1 団体であっても、最低制限基準を超えることが候補者指定の条件となっている。また、各委員とも応募団体と利害関係がないことは、確認書をもって確認済み。

面接審査では一団体につき、プレゼンテーションを 15 分以内で、質疑応答を 15 分以内で行う。応募団体退出後、15 分間、審議・採点を実施。その際、今道委員から財務評価の分析結果について説明していただいたのち、全体の採点及び評価のポイント等をまとめる。

**(3) 最低基準点の確認について**

令和元年度第 1 回委員会で承認されたとおり、出席委員の全ての評価基準項目の点数を合計し、最も得点の高い者を指定候補者として選定することとします。ただし、最低制限基準（最低基準点）に満たない団体は、選定されないこととします。最低制限基準（最低基準点）は「評価項目 1～6 の総合計点の 60%」に設定することで、前回委員会で確認済み。

**(4) 事業実績評価方法の確認について**

・山下地域ケアプラザを除く 4 施設について、「前期の指定管理業務の実績報告書」「事業実績評価」「第三者評価結果報告書」をもとに、評価シートの 7 (1) (2) を採点する。

・前期の指定管理業務の実績報告書について、「5 常勤職員配置」については、現指定期間のうち平成 28 年度から平成 30 年度までの 3 年度の職員の配置状況になっており、評価シートの「7 (2) 職員配置状況」の評価に関わる。3 年度の職員充足率が 97.25%を下回ると 5 点減点、上回ると減点無しとなる。

・「6 発生した事故」については、平成 28 年 4 月 1 日から令和 2 年 2 月 29 日までの期間で発生した主な事故とその後の対応状況を記載している。

・事業実績評価は各年度に区役所が指定管理者に対して行った評価結果、第三者評価結果報告書は外部の機関が現指定管理期間中に1度行った評価結果になっている。これらの資料をもとに評価シートの「7(1)前期の指定管理業務の実績」の評価をする。

**(5) 財務評価方法の確認について**

令和元年度第1回委員会で決定したとおり、各団体面接審査の後、応募団体退室後に採点作業を行うが、採点作業に先立ち今道委員から財務分析結果報告書を説明。その説明を踏まえて、財務評価を含めた採点を行う。

**(6) 面接審査**

ア 横浜市中山地域ケアプラザ

(ア) プレゼンテーション

団体から、団体の概要、事業計画等について説明

(イ) 主な質疑応答

委員：障害分野の相談件数も増えていると思うが、実際のところそのような相談についてどのように対応しているか。障害分野の専門機関との連携について、どのように考えているか。

応募者：社会福祉士、保健師、ケアマネジャーは配置しているが、障害に関する専門職はいないので、相談には応じながらも専門的な知識が必要な場合には、基幹相談支援センターなどに相談させていただきながら対応している。

また、今年度は緑区社会福祉協議会とも協力して障害分野の取組に関しても取り組んでいきたいと考えている。

委員：自主事業について、男性を対象とした事業や夜間の事業を企画されることで、工夫して利用促進をされているということだが、何か具体的に取組に繋がっているようなことはあったか。

応募者：既存の事業には男性は参加しにくいという声があったので、男性に特化した事業で様々な年代の方に参加してもらえるよう企画した。男性はおしゃべりを楽しむということよりは、得意なことを活かした事業の方が参加されやすいと考えている。参加された方の中には、これをきっかけにケアプラザへ来所される機会が多くなったり、また、自主事業に参加して学んだことを地域に還元されている方もいらっしゃる。

委員：相談の内容について経年変化で何か特徴はありますか。また、それらを踏まえて、感じている地域課題はありますか。さらに、そ

の課題について次期指定期間の運営上取り組むべきと考えていることはあるか。

応募者：インフォーマルサービスについての相談が増えている。ターミナルケアや軽度の認知症の相談について、病院から直接相談を受けることもある。

また、介護保険制度の要支援の認定を受けている方が多い。

それを踏まえると、エリア内に3箇所あるサービスBの利用促進が必要になると考えている。その他にも、ケアマネジャーの方に地域のサロンや食事会等につなげてもらえるように周知していきたい。

自立支援に向けてのインフォーマルサービスや、認知症の方が増えているので、普及啓発が必要であると感じている。

委員：職員の欠員が多かった時期があったが、その原因とその後の対応について教えていただきたい。

応募者：職員の募集に関しては、法人本部で対応している。求人等も出しているほか、通常時であれば、就職フェア等でも周知している。採用された方については、退職を防ぐためにも職員の育成にも力を入れて取り組んでいる。また、様々な施設を運営しているので、その職員に適した異動等も考えている。

## イ 横浜市十日市場地域ケアプラザ

### (ア)プレゼンテーション

団体から、団体の概要、事業計画等について説明

### (イ)主な質疑応答

委員：十日市場団地地区は相談件数が多いと思うが、障害の相談に関してはどのようなアプローチをされ、障害分野の専門機関と連携を図ろうとされているか。子どもの居場所の取組では障害の有無に関わらず参加してもらえる工夫をどのように図っているか。

応募者：障害に関しては、まだまだ地域への理解が届かない部分があるので、啓発を進めていきたい。障害の有無に関わらず、誰もが一緒に活動できる取組を提案していきたい。

委員：民生委員として75歳以上で暮らしている世帯を訪問したときに、夫婦とも身体が弱い世帯があって、どこに相談したらよいか分からない方がいた。その際、地域包括支援センターを紹介してもらったが、まだまだ地域包括支援センターの認知度が低いと思われるので、様々な場でのPRが必要ではないか。どのような対策

をとる予定か。

応募者：地域に出向くだけでなく、PRに活用できるツールを作成している。今後地域を回れるようになった時には、配布をしていく予定。

委員：相談の内容が経年変化でなにか特徴はありますか。それらを踏まえて、感じている地域課題はあるか。さらに、次期指定期間の運営について考えていることはあるか。

応募者：十日市場団地地区に関しては、単身世帯が多いので日常生活における困り事の相談が増えている。

新治西部地区は3つのエリアに分かれており、十日市場町は若い世代が多く相談は少ないが、アパート等に住んでいる単身世帯からは断続的に相談はある状況である。また、自治会未加入者へは情報が届いていない現状もあるのでアプローチしていく必要があると考える。

新治町は、同居世帯が多く、家族内で解決できることも多くあるが、解決できない問題については相談があると複合的な問題になっていることがあるので、そうならないためにも早い段階から相談してもらえそうな周知が必要と考える。

また、新治西部に関しては、昨年度自治会班長向けに認知症サポーター養成講座を開催した経緯もあるので、これを軸に実態把握や相談にも繋げていけるように取り組みたい。

#### ウ 横浜市長津田地域ケアプラザ

##### (ア)プレゼンテーション

団体から、団体の概要、事業計画等について説明

##### (イ)主な質疑応答

委員：地域的に若い世代が多くなっているようですが、自治会にも加入しない世代があるなかで、どのような啓発をされているか。

また、障害についての相談はどのように取り組まれているか。

応募者：年6回広報紙を発行している。また、若い世代に対しては特にブログを活用して必要な情報の発信をしている。

障害については、地区別計画において障害理解に関する取組の記載がある。今期については、当事者の方に講演を依頼し、地域の方にも聴いていただき、理解を深めた。相談については、地域包括支援センターでは、高齢の方で障害のある方の支援に関わったり、学齢期のこどもの相談については、移動情報センターと連携しながら取り組んでいる。

委員：過去3か年で見ると職員に欠員は無いようだが、現状、職員の欠員があると聞いている。それについてはどのように考えているか。

応募者：現在3人の欠員がある。福祉現場では、全体的に専門職が十分に配置できていない状況がある中で、法人本部では、常に募集をかけているが、申し込んでくれた方全員を採用できるわけではない現状。採用された方については現場で経験を積んでもらいながら育成している。また、インターンシップ等も行っている。新型コロナウイルスの影響で、採用活動は一時中断していたが、現在は再開している。ご心配の無いように配置していきたい。

委員：欠員についての原因分析はされているか。

応募者：全体的に欠員がある中で、当法人以外にも採用の選考を受けている方がそちらで採用されていることもある。

委員：相談の内容について経年変化で何か特徴はありますか。それらを踏まえて、感じている地域課題はありますか。さらに、次期指定期間の運営について考えていることはあるか。

応募者：長津田地区は、29の単位自治会で構成されている。

若い世代の転入者が増加している。高齢化率は他と比べて低めだが、認知症の方は増加傾向。また、8050問題について近隣の方からの相談がある。新型コロナウイルス感染症の関係で、新しい見守り体制の構築が求められていると感じている。

委員：見守りと言っても、「自治会の中での見守り」「事業者との見守りネットワーク」「向こう3軒両隣での見守り」などの体制があるが、どれをメインに取り組んで行く予定か。

応募者：個々の自治会の中での見守りやささいあいネットの介護保険事業者と連携した見守りを考えている。今取り組んでいるのは、事業者が見守りの窓口となってその事業者が主軸となる見守りの働きかけをしている。

委員：遠方の地域について、昨年度取り組んだ地域もあると説明がありましたが、手応えとしては、充分であると認識しているか、まだまだこれからだと認識しているか、どうでしょうか。

応募者：今年度も地域ケアプラザから遠方の地域（瀬谷区に隣接している地域）へのアプローチを進めていく予定。

## エ 横浜市東本郷地域ケアプラザ

### (ア)プレゼンテーション

団体から、団体の概要、事業計画等について説明

(イ)主な質疑応答

委員：活発な地域で様々な取組をされていると感じる。障害に関する取組・啓発等をされていれば聞きたい。

応募者：生活支援センターと連携して、こころの病に関する相談会を定期的実施していきたい。障害者にとって地域ケアプラザは少し敷居が高いところもあるが、近隣に障害者のグループホームがあり、地域ケアプラザに立ち寄られた際にはフリースペースを積極的に案内し、活用していただきたいと考えている。また、みどり養護学校とは、実習生の受入れ等にあって一緒に取組を行っている。

委員：フリースペースを公開し、小学生・中学生に活用してもらえるよう取り組んでいる旨、事業計画書にも記載されている。また、近隣の公園にいる子どもへの声かけをされているようだが、これらの取組により他の取組につながった事例はあるか。

応募者：ちょこっとボランティアとして、ケアプラザの簡単な仕事のお手伝いをしてもらったり、夏休みにはボランティア体験の受入を行っている。

委員：相談の内容について経年変化で何か特徴はありますか。それらを踏まえて、感じている地域課題はありますか。さらに、次期指定期間の運営について考えていることはあるか。

応募者：今まで地域の担い手だった方が、体調等崩されて相談にくるケースがここ2、3年で増えている。そのような方々が担い手としての活動ができなくなることにより、担い手不足という新しい課題が生じている。なかなか難しいことだが地域の方と歩みながら、新たな担い手を発掘していきたい。

委員：相談件数が、他の地域ケアプラザだと2,000件のところもあると聞いている。それに比べると少ない。件数の多寡が問題ではないが、相談について解決に至った割合はどの位か。

応募者：内容は、統計ではないが、地域包括支援センターの会議でよく出る話としては、精神的支援が必要な方の相談が多くなっている。老人性うつなど専門ではない問題もあるが、生活支援センターと連携しながら対応していきたい。解決できていない相談については、継続して支援していきたい。

委員：地域の情報を収集することも大切だが、一方、地域ケアプラザとして発信した情報が、地域の中でどのように有効に活用されているか、分析されているか。

応募者：地域団体の様々な媒体で情報を収集することが出来るため、分析していききたい。さらに、収集した情報をもとに地域ケアプラザとして情報発信し、分析していききたい。

委員：応募書類事業計画書の3ページ、「関係団体との連携について」で、これまで強く成果をあげたと感じられた実績・実感があれば聞きたい。

応募者：子育て世代支援を重要と考えている方が地域にいる。場所の問題や取組内容の問題でなかなか進まなかったが、法人のノウハウを生かして地域ケアプラザ内にフリースペースを設置した。

また、地域ケアプラザで行っていた子育て支援活動を地域の方の理解を得た上で、ある団地の集会場を使って地域主催でやれるようになったことが大きなものとして挙げられる。

オ 横浜市山下地域ケアプラザ（社会福祉法人 ふじ寿か会）

(ア)プレゼンテーション

団体から、団体の概要、事業計画等について説明

(イ)主な質疑応答

委員：ケアプラザというと、高齢分野に注目されがちだが、障害分野の取組についてはどのように考えているか。地域住民の障害理解も課題があるがどのように対応していくか。

応募者：8050 問題では、親だけでなく子どもが障害のあるケースもある。昨年度も実施したが、生活支援センター等と連絡会を行っていく予定。

委員：民生委員に対する介護保険などの情報提供を行っているとのことだが、民生委員が聞いたら教えてくれるのか、貴法人から積極的に教えてくれるか。

応募者：民生委員の集まり（定例会等）の際に、ミニ講座を実施し情報提供させてもらい、問い合わせがあれば情報提供していく。

委員：周辺環境への配慮、立地特性の配慮について、口頭でもお聞かせ願いたい。また、5年間で、最も重点をおいて取り組んでいきたいことは何か。

応募者：地域的に自動車の裏道・抜け道が多いので、交通関係のルール啓発に取り組む必要があると考えている。また、農業との連携についても考えていきたい。例えば、子ども向けに畑を貸すというアイデアもある。詳細は、今後近隣農業の方と話しをして詰めていきたい。

委員：子育て支援に関して、遠方からでも地域ケアプラザに来てもらうよう

な工夫を考えていることはあるか。また、子育て中の方で地域とのつながりの少ない方もいると思うが、こういったアプローチを考えているか。

応募者：山下小学校のコミュニティハウスもあり、ささえあいバスの運行も相談の上、地域ケアプラザを経由できるよう活用していきたい。地域のつながりの少ない方も多いと主任児童委員の方から多いと聞いている。主任児童委員の方に情報提供していくことで、手渡しで情報が入手できるようにしていきたい。

委員：地域の住民の主な居住エリアと離れた立地になるが、どのように関わっていくか。

応募者：今まで、法人として事業所の外に出向く活動を中心に取り組んできたので、そこは変わらずに取り組んでいきたい。周知方法は、回覧・掲示等もあるが、来ていただいた方の口コミを活用していきたい。

委員：周辺環境との連携、農福連携においてケアプラザを建設するにあたり、ケアプラザの活動が周辺にどのような影響を及ぼすか、農家の立場になってどのような運営を考えているか。また、福祉避難所としての役割について、特に洪水に関してはどのような対応をとっていくか。

応募者：地域自体が浸水地域なので、現在近くで運営している特別養護老人ホームでは、地域と協定を結んで、いざというときには避難してもらうようにしている。近くの施設も避難所として活用できるか今後話し合いをしていく予定。また、夜になると暗く、不審者もいるのでそういった面で農家の方々などと連携していければと思う。

カ 横浜市山下地域ケアプラザ（社会福祉法人 みどりの風）

(ア)プレゼンテーション

団体から、団体の概要、事業計画等について説明

(イ)主な質疑応答

委員：障害分野についてどのような取組を考えているか。地域への障害理解について、啓発含めてどのような周知方法を考えているか。

応募者：障害分野については疎い部分もあるが、まずは地域の実態の把握に努める。

また自分達だけで全て解決することは難しいので、地域の障害施設と連携して、どこに聞けば解決するかを案内できるようなネットワークを構築していきたい。

委員：地域ケアプラザと民生委員との関わり方をどのように考えているか。

応募者：過去に施設にお越しいただき、施設を見ていただいた方、法人の地域密着型通所介護事業所の運営に係る会議の委員の方がいる。  
今後ケアプラザを運営するにあたって、定例的に会合等で顔を合わせて、相互理解を深めていきたい。

委員：事業計画書の「1 運営ビジョン（4）」について、周辺環境・立地特性について、どのような配慮を現時点で考えているか。実施する重点取組の想定が具体的にあればお聞かせ願いたい。

応募者：地域ケアプラザと周辺の農家が切り離されるのではなく、連携して取り組んでいくことが大切であるとする。実際に周辺地域を歩いた。まず地域の方に地域ケアプラザを知ってもらうことを第一に行っていきたい。建設予定地周辺には、夜間は明かりも乏しいので、地域ケアプラザだけで出来ることは限られると思うが、来所の方が安全に来ていただけるような取組を考えていきたい。

例えば、同じ地域の中に法人の介護保険施設がある。その施設のデイケアの間は、車両・運転手の空いている時間もあるので、地域ケアプラザとしてうまく活用していくことも検討していきたい。

新型コロナウイルス感染症流行前に当たり前のように取り組んでいたこと（集まって活動する等）が、できなくなる可能性もある。取組の方法等についても、今後軌道修正をしながら検討の必要があると感じる。

いずれにしても、まずは地域ケアプラザが地域のものであることを知ってもらい、地域の方と一緒に取組を考えていきたいと考えている。

委員：実際に農家の方とお話するような機会はあったか。

応募者：日頃から、関わりのある農家の方とは話をする機会はあったが、ケアプラザ開設予定地周辺の農家の方とは話してはいない。

委員：小さな子どもを持つ家庭やケアプラザと離れたところに住む人にとって、移動手段・事業等で考えていることはあるか。若年層は自治会未加入者も多いが、そういった方への取組は何か考えているか。

応募者：どの世代でもケアプラザに足を運びたいような、事業を考えたい。法人の既存の事業形態だけでは実現できなかった「子ども食堂」等の活動も考えていきたい。

ケアプラザに安全に来所してもらうために、付き添いのサービスや送迎等の実現が可能か検討していきたい。

委員：ボランティアの活動についてどう考えているか。

応募者：ボランティアの活躍支援について、ケアプラザだけではなく、地域の活動についても繋げていけるようにしたい。いろんな活躍を出来る場を設けたいと考えている。

委員：福祉避難所について、色々と考えていることが事業計画書からも読み取れた。ただ、ケアプラザ周辺は浸水区域となっているが、風水害・洪水の時にはどういった対策を講じる予定か。

応募者：必ずしも山下地域ケアプラザの場所を避難所とするだけでなく、他の避難所との連携や職員のマンパワー・知識を活かしていきたい。具体的には、同地区にある当法人の施設を利用していきたい。

委員：地域ケアプラザの重要な役割として地域との繋がりが挙げられる。自治会館で講座を開いた実績は聞いたが、それ以外に地域と連携した具体的取組はあるか。

応募者：現時点では、自治会のみなさんと一緒になって取り組んできたことはない。

ただ、当法人の地域密着型通所介護事業所の会議に自治会長等に委員として参加していただいているので、当法人がどのようなことを行っているか少しずつ知っていただいている。

また、月1回、地域交流のカフェを開催している。そこから、相談等につながることもある。

地域の方の参加がまだまだ少ない状態なので、これからコミュニケーションを増やして、より多くの人に知ってもらえるような努力を行っていきたい。

## (7) 審議

プレゼンテーション及び面接審査並びに事務局から前期の指定管理業務の実績に係る報告を受けて評価を行い、各委員の評価結果を集計する。

### ア 横浜市中心地地域ケアプラザ

	応募団体	評価得点／満点
指定候補者	社会福祉法人 横浜市福祉サービス協会	1,865／2,275 点
次点候補者	無し	—

#### (審査講評)

現状をよく認識して取り組まれている印象。男性が参加しやすい事業や夜間帯に事業を企画しているということで、日頃利用されない方の利用を促進するような事業を今後も引き続き期待したい。

また、ケアプラザから遠い地域に対してのアプローチも期待したい。インフォーマルサービスの相談が増えていることに関して、住民の自助や互助をさらに充実させて

くことを期待したい。要支援が増えているということなので、要介護状態に陥らないように介護予防のさらなる充実が期待できる。ターミナルケアのニーズが高まっていることから、権利擁護等の取組に関しても充実させていってほしい。

#### イ 横浜市十日市場地域ケアプラザ

	応募団体	評価得点／満点
指定候補者	社会福祉法人 神奈川県匡済会	1,856／2,275 点
次点候補者	無し	—

(審査講評)

地域密着のケアプラザとしては、それぞれの地域特性について、直近の課題も含めて語られていたので十分期待できる。

それぞれの地域にかなり深く入り込んで、地域の事業にも積極的に参加されている。職員が継続して配置されていること、離職が少ないことは安心できる。新たな職員に対しての研修も充実しているようなので、安心できる法人と感じる。

一方で、地域ケアプラザや包括支援センターの認知度はまだ低いと感じるので、地域への積極的な周知を行い、気軽に足を運べる施設になると、便利な地域になると感じる。

また、地区の活動団体の検索ツールについては、より一層の活用方を模索してほしい。

#### ウ 横浜市長津田地域ケアプラザ

	応募団体	評価得点／満点
指定候補者	社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会	1,816／2,205 点
次点候補者	無し	—

(審査講評)

具体的な事業にしっかりと取り組まれている。課題の把握も出来ているので、体系立てて、最も効果的な方法を検討してほしい。

情報の周知でブログをやっているということだが、ブログはプッシュ型のツールではないので、実際のそのページを見てもらわないとあまり効果は期待できない。口コミ等を通じて、まだつながっていない、ケアプラザを知らない人への周知も積極的に行って欲しい。人員の確保については、早急に配置できるという回答では無かったことが懸念である。

#### エ 横浜市東本郷地域ケアプラザ

	応募団体	評価得点／満点
指定候補者	社会福祉法人 横浜 YMC A 福祉会	1,758／2,205 点
次点候補者	無し	—

(審査講評)

地域の活動に寄り添って協力的に実施しているので、地域等との連携をこれからも充実させてほしい。一方で地域ケアプラザ発信の新しい取組にも期待したい。地域ケアプラザ自身がリーダーシップを取る場面、地域がリーダーシップを取る場面の緩急を付けて相互にサポートすることも大事である。

相談については、実績とともに傾向・統計分析、経年変化でどのような変化がされているのか数字で客観的にわかると良い。地域の課題を可視化して地域にフィードバックすることが大切である。

オ 横浜市山下地域ケアプラザ

	応募団体	評価得点／満点
指定候補者	社会福祉法人 ふじ寿か会	1,676／2,170 点
次点候補者	社会福祉法人 みどりの風	1,524／2,170 点

(審査講評)

指定候補者は、山下地域で培ってきた実績、経験を具体的に語られていて、安心感があった。地域活動の実情について理解しており、地域（自治会や民生委員等）とのつながりを生かした事業展開の基盤ができていることは運営上の強みとなりうる。また、地域ケアプラザ運営にあたって財務上考慮すべき事項について明確にビジョンを持っていたことも好印象であった。以上、これまでの取組の安定性は感じられたので、ぜひ周辺環境に配慮しつつ、ケアプラザとしての新しい取組に繋げていくことを期待したい。

次点候補者は、これまで山下地域で長らく高齢施設運営を行ってきており、実際に地域ケアプラザ立地周辺の状況を確認して、地域ケアプラザ運営に必要なことを熟慮している様子うかがえた。事業計画書については地域ケアプラザ運営への意欲を大いに感じる事ができたものの、「障害児・者」「子ども・子育て世代」の支援に係る専門機関や地域（自治会、民生委員等）とのつながりについて、具体的な方策が面接審査で聞かれなかったことは残念であった。

指定候補者の得点は、いずれも最低制限基準の 60%以上であるため、選定委員会として社会福祉法人横浜 YMC A 福祉会他を指定候補者として選定することを決定する。

資 料  
・  
特 記 事 項

**1 資料**

- (1) 横浜市緑区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会員名簿
- (2) 横浜市緑区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会運営要綱
- (3) 横浜市緑区地域ケアプラザの指定管理者の候補者の選定等に関する要綱
- (4) 令和元年度第 1 回指定管理者選定委員会議事録

- |   |
|---|
| <p>(5) 令和2年度第1回指定管理者選定委員会タイムスケジュール</p> <p>(6) 最低制限基準（最低基準点）の設定について</p> <p>(7) 前期の指定管理業務の実績報告書、事業実績評価財務分析結果報告書</p> <p>(8) 第三者評価結果報告書</p> <p>(9) 財務分析結果報告書</p> <p>(10) 面接審査評価シート、応募団体応募書類</p> |
|---|

**2 特記事項**

特に無し